

「ひとつの映画の話題から」

「禁じられた遊び」と聞くだけで、あの音楽と子どもたちの顔が浮かんでくる。ナルシソ・イエペスの哀愁のある音楽は主旋律が分かりやすく、子どもとピアノで音を拾っては弾き楽しんだ。また、主人公のかわいらしい子どもたち・ポーレットとミッシェルの表情やしぐさも忘れられない物である。

2年前に所属している読書会で、「積みすぎた箱舟」ジェラルド・ダレル著と「ユージン・スミス」土方正志著を読む機会があった。写真家ユウジン・スミスの「楽園へのあゆみ」の写真を見たとき、明るい向こうへ歩いていく子どもたちの姿が、「禁じられた遊び」の子どもたちと重なった。

先日、美容院で髪をカットしてくれている若いスタッフにこの映画を知っているかと聞いたら、「聞いたことはあるけど・・・」と。私たちの年代だったら、だれでも知っている映画も、若い人たちには縁遠いのだ。でも、そこからおすぎたちが選定委員をして決定した1950~70年代を中心とした洋画の傑作50本「午前10時の映画祭 何度見てもすごい50本」が、2010年2月6日~2011年1月21日の50週間に上映されるという話を教えてもらった。一つの映画から話題が広く広がっていくのを感じることができた日だった。

山田美代子

「胸震わすラストシーン」

この作品、何十年ぶりにDVDで下見したんですが、やはり素晴らしい作品でした。

「冒頭、ドイツ軍戦闘機の機銃掃射が少女の両親の背中を打ち抜くまでの流れ」、「少女の異常なまでの十字架に対する執着を表わす数々のシーン」、「水車小屋での少年と百才?のミミズクの触れ合いのシーン」、「少女が孤児院に連れて行かれる途中、『ミシェル、ミシェル・・・』と呟きながら、一人街の雑踏に吸い込まれていくラストシーンに、一言だけ『ママ・・・』という呟きを挟むところ」など、ものすごく練り上げられた数々のシーンに、感動を新たにしました。また、要所に流れるイエペスの切々たるギターの調べには、条件反射的にウルウルになる生理現象を止めることができませんでした。

当時、この映画を観てギターを練習しようとした人は世界中で相当の数に上るとは思います。私もその一人です。勇んで練習を始めたのですが、ご他聞にもれず「禁じられた遊び」までは届かず、あえなく挫折。就職後、改めてギター教室に通い、いわゆる「愛のロマンス」と呼ばれてい

る始めと終わりのさわりの部分だけは弾けるようになりましたが、中間部はとうとう歯が立ちませんでした。

このさわりの部分、スペインに古くから伝わる民謡だとか、イエペスの作曲だとか諸説あるようですが、最近19世紀後半にスペインのギター奏者アントニオ・ルビラーが作曲した「分散和音の練習曲」が原曲だという説を見かけました。

なお、映画「禁じられた遊び」のテーマ音楽は単一の曲ではなく、「愛のロマンス」のほかヘンデルの「サラバント」、ラモーの「メヌエット」、リョベートの「アメリカの誓い」など、数曲を複合した組曲的なものにとらえた方がよいとの説もあります。

K.M.

「映画の評価について」

「あらゆるフランス映画は恋愛映画である」とは、淀川長治さんの言。

『映画は語る』（淀川長治、山田宏一 著 中央公論新社：N778.0-エ）の中では、『禁じられた遊び』は5歳の女の子と7歳の男の恋愛の話でしょう。女の子はパリから来て、すぐ田舎の男の子を顎で使っている。フランスでは、4歳の子どもでも女やね（笑）。やっぱりフランスの女は強い、こわいです」と独特の面白い見方を述べている。

当時映画雑誌の編集長を務めていた淀川長治さんは、『禁じられた遊び』が外国語映画賞を受賞した1952年（第25回）のアカデミー賞授賞式に、日本人として初めて正式に招待されている。

この年のアカデミー賞作品賞は『地上最大のショー』。この年、『真昼の決闘』『雨に唄えば』『ライムライト』『静かなる男』などの作品があったことを考えると、今は一番観られていない映画かもしれない。この何年かの作品賞を振り返っても、「?」と思える作品がある。でも、アカデミー賞の中にもいろいろな部門があって、映画はつくづく「総合芸術」だと思う。

3/8の第82回アカデミー賞では『ハート・ロッカー』が作品賞を受賞。その特集を組んでいた『キネマ旬報』3月下旬号では、「絶滅危機種問題」（P176）として、2009年の興行収入ベストテンとキネマ旬報ベストテンが、全くかぶらないことを取り上げていた。つまり、高い評価を受けながら、多くの観客にも指示される映画がないということだ。『アバター』の興行収入と『ハート・ロッカー』の6部門受賞も、そのような文脈で語るニュース（MSN産経ニュース）があった。

e3



「自分の体験とも重なり…」

この映画の冒頭は、1940年ナチスによるパリ占領によって、パリを逃れようとする避難民に襲いかかるドイツ軍機の機銃掃射の場面から始まる。このシーンを見るたびに、私の子供時代の一シーンが思い出される。というのは、友だち数人と、夏休みに近くの川に水遊びに行った帰り道、前方から飛行音が聞こえてきた瞬間、先輩が「敵機だ！畑に逃げろ！」と叫び、全員が横のトマト畑に飛び込んだ直後、歩いていた道に艦載機からの機銃掃射があり、一命が救われた記憶があるからだ。このシーンには、いつもショックを受ける。

映画では、ポーレットをかばった両親と愛犬が死ぬ。ポーレットは冷たくなった母親の頬に触れるが、あまりのことに涙ひとつ流せない。5歳のポーレットには死の実態がわからず、悲惨なシーンを無邪気な可愛らしい演技で涙を誘われた。

孤児となったポーレットは農家の少年ミシェルと出会い、少年のドレ家で暖かいふれあいのある生活を送る。しかし、信心深い少年であるミシェルが愛犬のお墓をつくることにより、二人は禁じられた遊びである十字架集めに夢中になる。

ある日、ポーレットを孤児を保護する施設へ連れていくために警官が訪れる。ミシェルは父親に、ポーレットを家に残す約束で十字架の場所を教えるが、ポーレットは警官に引き渡される。大人への不信とポーレットを失う絶望で、ミシェルは集めた十字架を泣きながら川へ投げ込んでしまう。ポーレットは、難民収容所の雑踏の中で「ミシェル!」という叫び声を聞いて飛び出し、やがて「ママ、ママ」とつぶやきながら消えていく。そして、全編に流れるギター独奏による、哀しく美しいテーマ曲。

国と国が無意味な殺し合いを続けることの悲しさと恐ろしさを、最も弱い立場にいる子どもの姿を通して静かに訴えている反戦映画だと思った。その無意味な争いが、現在でも続いていることにも悲しさを感じる。私個人の希望と

しては、「禁じられた遊び、パート2」を作成していただきたい。ポーレットとミシエルのその後の人生が映画化されることを希望する。

S.N

「もうひとつのラストシーン」

（「禁じられた遊び」の原作を読む）

「禁じられた遊び」はフランソワ・ボワイエが1947年に文学作品として発表しました。この作品はフランス国内のみでなく、世界中に大きな反響を呼び、17カ国で翻訳され、アメリカだけでも100万部以上売れました。現に、1970年日本で花輪莞爾氏が翻訳のために、手にした原典は2722版という驚くべき数字となっていました。

「禁じられた遊び」はルネ・クレマン監督による映画化とナルシソ・イエペスのギターによる名曲「愛のロマンス」によって世界の映画ファンに支持されました。

映画の影に押しやられたフランソワ・ボワイエの「禁じられた遊び」を図書館で借りて読んでみました。普通、物語の登場人物のイメージは自分で描きながら本を読むわけですが、この映画で観たミシェルとポーレットの印象があまりにも強く、イメージが常に頭の片隅に有りました。原作には、映画では表現できないポーレットのちいさな頭の中で起こる、想像の世界と現実の戦争の悲劇が詩的に描かれています。そして、原作に書かれているラストシーンとは・・・。是非、原作も読んで頂ける事をお勧めします。

au

【お詫び】

前回の上映会と毎日新聞紙上において、「りぶらまつり」（スタジオ）での上映案内をいたしました。その後に予定が変更になり、一部の方にご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。

1953年キネマ旬報ベスト・テン
洋画部門で、第2位・チャプリンの『ライムライト』
を押さえ、『禁じられた遊び』が第1位でした。

1952年アカデミー賞
最優秀外国語映画賞受賞
ベネチア映画祭
サン・マルコ金獅子賞

次回の上映については、上映時間や作品など、変更になる場合がありますので、事前にご確認下さい。

『禁じられた遊び』
フィルムデータ

原 題：JEUX INTERDITS
製作年：1952年
製作国：フランス
配 給：87分
仕 様：モノクロ
時 間：128分

スタッフ：
監督：ルネ・クレマン
原作：ランソワ・ボワイエ
脚色：ジャン・オーランシュ / ピエール・
ポスト / ルネ・クレマン
音楽：ナルシソ・イエペス

キャスト：
ブリジット・フォッシー
ジョルジュ・ブージュリー
リュシアン・コベル
ジョザヌ・クールタル
ジャック・マラン

りぶらサポータープロジェクト
『禁じられた遊び』

「シネマ・ド・りぶら」
関連図書案内
& DVD

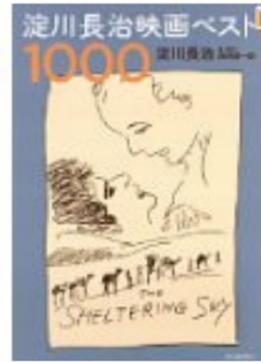
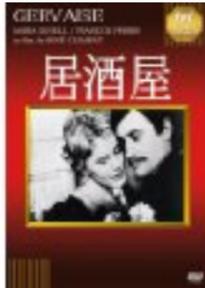
評論

監督：ルネ・クレマン

N778.2 共同通信社
『20世紀の映画監督名鑑 (Mook21)』



778.235
アイ・ヴィー・シー
『居酒屋』



943.6 淀川 長治 / 著
河出書房新社
『淀川長治映画ベスト 1000』

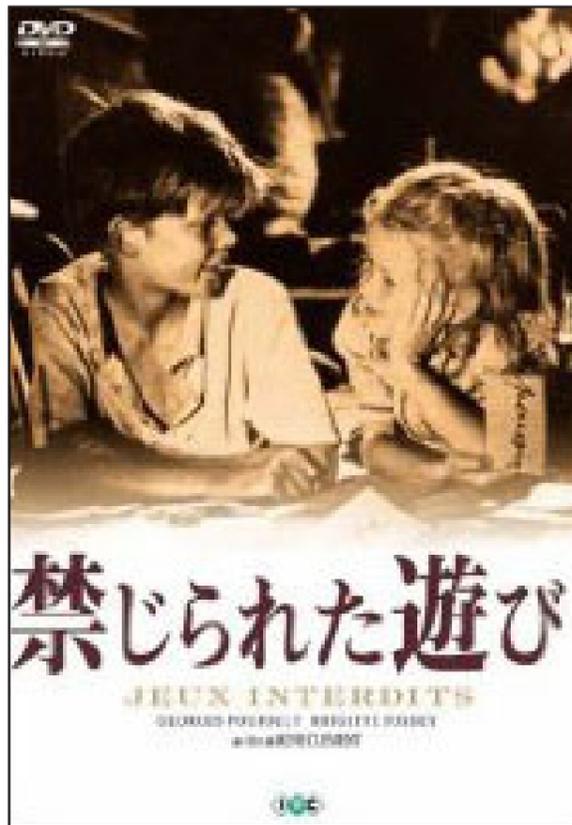
778.2 双葉 十三郎 / 著
近代映画社
『外国映画ぼくのベストテン 50年』



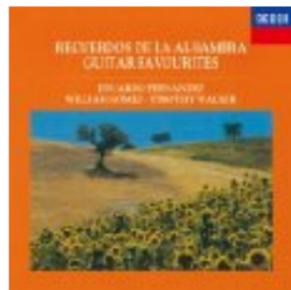
778.253 BSfan mook21
共同通信社『アカデミー賞』
第1回～76回まで、写真とエピソードで綴るハリウッド・アカデミー賞とノミネート全記録。また、作品賞に輝いた第1回～76回までの名作のオリジナルポスターも一挙掲載。2002年刊をヴァージョンアップした最新版。

音楽

778.04 大日方 俊子 / 著
ヤマハミュージックメディア
『知ってるようで知らない映画音楽おもしろ雑学事典』



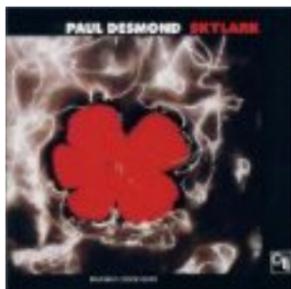
N778.2 共同通信社
『20世紀の映画 (Mook21)』
ハリウッド・メジャースタジオの100年や、アカデミー賞・ゴールデングローブ賞・カンヌ映画祭等の記録、20世紀のドル箱スターランキングなど、初公開の貴重な写真とエピソードで綴る20世紀の映画。



1D キ Decca
『珠玉のギター名曲集』
ゴメス ウィリアム / 演奏



1E ス Bellwood Record
『カタロニア讃歌 鳥のうた / 禁じられた遊び』
鈴木 大介 / 演奏



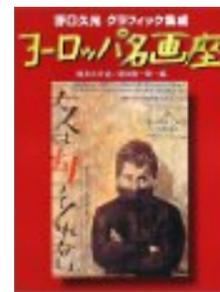
2B テ CTI Records
『スカイラーク』
デズモンド ポール / 演奏

763.2 ケイ・エム・ピー
『やさしく弾けるスクリーンピアノ・ソロ・アルバム』

原作

953 『禁じられた遊び』
フランソワ・ボワイエ / 著
河出書房新社・角川文庫

アート



778.23 筒井 たけ志 / 編
朝日ソノラマ
『ヨーロッパ名画座
野口久光グラフィック集』

時代背景



302.35 長部 重康
山川出版社
『現代フランスの病理解剖』

302.35 フランス外務省
原書房
『現代のフランス』

